



コレクション展Ⅱ「兵庫のベスト・オブ・ベスト」関連
こどものイベント「書の世界へようこそ！」

- 開催日時：2026年2月21日(土) 13:30～16:00
- 参加者：こども15名、保護者13名
- 対象：小学生～中学生
- 会場：アトリエ2、常設展示室2階

■概要

コレクション展Ⅱの出品作品の中から、「書」に注目。筆と墨を用いて、さまざまな線の表情や色の濃淡を表現する制作と、制作の前後に2回の作品鑑賞を実施し、作品の見え方の変化について意見を交わしました。

■オリエンテーション、作品鑑賞1回目

私たちの多くが小学校で体験したことのある「書写」は、今回参加してくれた子どもたちにとっても親しみのある科目です。今回イベントを担当したのは書を専門とする剣持学芸員。「実は、兵庫県は書道が盛んな県です。美術館にはどんな書の作品があるのか、まずは展示室で見てください。読めなくてもいいし、読まなくてもいいよ」子どもたちが展示室に入ると、そこには大きな書の屏風や連作、縦に長い作品など、さまざまな作品が展示されていました。子どもたちは気になる作品の前で足を止め、じっくり眺めたり、解説しようと試みたりしながら、自由に鑑賞を楽しんでいました。



学芸員の説明

◇参加者の感想

- ・書道の後、もう一回作品をみにいって「これってこうやって書いたんだ」と見つけたのが楽しかった (小5)
- ・書はよめなくてもいいし、よまなくてもいいこと (小4)
- ・しゅうじは字を書くことだと思っていたけど、絵もかけることをはじめて知りました。自分の名まえを書いたのが楽しかった！ (小3)
- ・子どもが左利きで書道に楽しみを覚えていなかったのですが、今回左手で自由にいきいきと制作していたとても良かったです。(保護者)
- ・学校の授業でしかやったことがなかったが、違う視点でみることを教えてもらって、鑑賞もでき、とてもよい経験になりました。(保護者)

■筆と墨をつかった制作

鑑賞を終え、アトリエに戻ると、ある子どもが「書道は字だと思ってたけど、絵みたいだった」と感想を話してくれました。すると、剣持学芸員は「いいですね。絵みたいな字もあるんだよ。今日はみんなも実験してみましょう」と制作が始まりました。

まずは大筆を使い、その筆で出せる「一番太い線」と「一番細い線」を書くことに挑戦しました。続いて「速い線」と「ゆっくりの線」を書き比べます。「ゆっくりの線はぶよぶよだ！」子どもたちは自分が書いた線を見比べながら、その違いを観察していました。なかでも、子どもたちに人気だったのは、薄い墨を使って書く「×印」の実験です。筆で半紙に×を書くと、先に書いた一画目のほうが上に重なって見える不思議な現象に、子どもたちも保護者の皆さんも興味津々でした。

最後に“筆以外のもの”を使って自分の名前を書きました。子どもたちは指や手、ペンのキャップ、新聞紙などを使い、墨の濃さや書く速さなどを工夫しながら、思い思いの表現に取り組んでいました。



慎重に、細い線に挑戦中！



筆以外のものを使って書いてみよう！

■作品鑑賞2回目

制作が終わると、剣持学芸員とともに再び展示室へ向かい、作品をじっくり鑑賞し意見交換を行いました。改めて見てみると、黒い墨汁以外で書かれた作品や、ユニークなかたちをした作品があることにも気づきます。また、「この部分はかすれているから早く書いたのかもしれない」「ぶよぶよしてるから墨をたくさんつけたんだと思う」など、実際に制作を体験したからこそその発見や気づきが多くみられました。

なかでも印象的だったのは、「品」という字が屏風に書かれた作品のタイトルが《愛》だったことです。子どもたちは「どうして愛なんだろう」と首をかしげました。剣持学芸員は「これを書いた作家にお孫さんが生まれたとき、赤ちゃんのかわいらしい姿を見て、この作品を書いたそうです」と教えてくれました。文字のかたちだけではなく、作品のなかに込められた作家の思いを知り、子どもたちも保護者も静かにその作品を眺めていました。



展示室にて、みんなで作品鑑賞

■ふりかえり

最後に、参加者全員で感想を共有しました。「書道は字を書くものだと思っていたけど、絵も描いていいんだと思ったら書が好きになった」「いろいろな書があって、書は範囲が広いんだと思った」との意見が出ました。剣持学芸員からは「人それぞれ好みがちがうように、書もさまざまな表現があります。ぜひ自分の好きな書を見つけてくださいね」とメッセージがありました。今回は実際に制作を経験したことが、その後の鑑賞にもつながり、作品の見え方や感じ方の変化を実感する充実した活動となりました。

(小田美沙紀/エドゥケーター)



学芸員の私物(書道用具)に興味津々！

□担当学芸員からのコメント

本イベントでは、筆と墨を使ったいろいろな実験制作をおこない、その経験をもとに展示されている書の作品を鑑賞するという活動にチャレンジしました。筆と墨ができる表現方法とその広さを楽しく実感してもらうことができ、その後の鑑賞では担当者も驚くくらい鋭く、そして素晴らしい感想や意見がたくさん発表されました。

このイベントが、書という芸術の面白さを感じてもらう機会になるとともに、これからの生活での書写や書道、筆文字について、興味を持つきっかけになったら嬉しいです。(剣持学芸員)